

近年、クジラの胃の半分以上マイクロプラスチックが入っていると大きく取りあげられていた。それを知り、海について調べてみると、最近海洋汚染が問題になっていて、海洋汚染の主な原因は工場の排水や、プラスチックごみだということも分かった。では、海洋汚染を軽減させるにはどのような対策が必要なのだろうか。

海洋汚染の主な原因のプラスチックの生産量は大きく増え、千九五十年代と比べて、約二百倍ものプラスチックが生産されている。プラスチックはごみとして捨てられると、自然に分解されることはほとんどないそうだった。

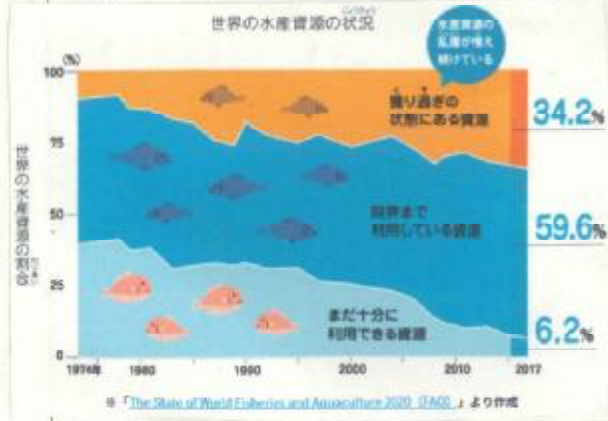
自然に分解されずに残ったプラスチックはそのまま海に流れつみ、えきとがんちがいして食べってしまったり、知らないうちにのみこんでしまったり、海洋汚染にもつながったのだと考えられる。

このままでは、二〇五〇年までに、海に流れこんだプラスチックごみが海の魚の量をこえる、という予想がされているそうだった。

こんなことが起こらないように、私達は具体的な対策を取らなければならない。

「世界の水産資源の状況」というグラフをみると、とりまぎの状況である資源が三十四パーセント、また十分に利用できる資源が六十二パーセントと、魚の資源が非常にひびくしていることが分かる。

このまま何もせずいたら、魚が食べられなくなるかもしれない。魚などの海の生き物を守り続けるために、



私たちのふだんの生活から変えていけないといけない  
のではないだろうか。例えば、ポイ捨てされたゴミを捨ったり、  
海岸に流されたゴミ拾いなどを定期的に行ったり、買い  
物に行ったら個包装ではない物を買って、ゴミをできるだけ  
多く出さないようにしたり、かんきょうのためにできるこ  
とを探し、行動しないといけないと思う。いつも気を付け  
るのはおりにても、少しずつ世界中の人々が協力しあえば海  
の豊かさを守れると思う。

確かに、海洋汚染で必ず魚が食べられなくなる訳で  
はないのかもしれない。しかし、このまま私たちが対策をう  
たなければ、魚は今のようになんか簡単に魚を食べることが  
難しくなり、食料不足になるかもしれないのだ。その時に  
困るのは人間なのだ。だから、持続可能な漁業を進めていか  
ないといけないのではないかな。そのためには私達が協力し合わ  
なければならぬ。少し行動したとしても、しゅらかん付け  
れば効果が出ると思う。私達は元となり協力していかな  
ければならぬのだ。

〔出典〕「EduTown SDGs世界の国や地域が協力して

持続可能な開発を目指すSDGs」東京五目竹経